

JAL被解雇者労働組合（JAL 争議団）

info@jhu-wing.main.jp<https://jhu-wing.main.jp/>

JAL 不当解雇撤回

南部連絡会発足！

9月25日、東京大森にてJAL不当解雇撤回南部連絡会の発足集会が行われました。東京で4番目の支援組織となります。

集会では、争議の経過報告および質疑応答の後、会の名称と目的、行動提起があり拍手で承認されました。そして、12月20日のJAL本社大包围行動には、地元から昨年以上に大量動員をしようと呼びかけがあり確認されました。

呼びかけ人：伴 幸生さん（首都圏なかまユニオン）



昨年の5・3憲法集会で相談会を開き、月1回の定例宣伝行動を地域の労働組合や住民団体・個人に呼びかけながら、取り組みを進めてきました。JAL本社や羽田空港がある南部地域での連絡会を正式に発足し、低空飛行問題も地道に取り組まれている地域での多様な取り組みとも連携できればと思います。引き続き、月1回の定例行動や東京連絡会の会員拡大など進めながら、必要のなかった不当な解雇を撤回させていく都内での運動とともに頑張っていきます。

超党派国会議員27名による「質問状」に対しJALは正面から回答しない。「再質問」されたが、相変わらず不誠実な対応を行っており、JALは議員の質問にもまともに答えられない。JALグループ会社で働いている解雇された機長が、JAL便の機長として乗務するなど矛盾が噴出している。JALは争議を解決するしかない。



山口委員長

昨年12月のJAL本社大包围行動、そして今年8月の羽田アピール行動は、過去最高の参加者となった。茨城の会、東京連絡会、南部連絡会と運動はどんどん広がっている。JAL現役乗務員もJHUに加入し新たな展望も広がった。12・20 JAL本社大包围行動を成功させ、納得いく解決に向け共に闘っていただきたい。



鈴木客乗団長



奥山 信義さん（東京連絡会共同代表）

JAL争議の意味、どう闘っていくのか。学習会を含む準備会から始まり、今年5月に東京連絡会ができた。定例で行われている都内各ブロックの宣伝行動を東西南北繋げて、争議の早期全面解決のために引き続き共に頑張りたい。



鈴木 等さん（GJ西部連絡会共同代表）

原発（G）とJAL争議（J）の状況を報告しあいながら取り組んできた。西部で月1回の宣伝行動を継続。バラバラでは大きな力にならない。JAL争議の解決と労働法制を守る闘い、労働者の権利を勝てる闘いとして前進させていく。南部連絡会もさらに発展させ、大きな力にしていきたい。